



# ナナミちゃんの農事通信

発効日 2005.07.12

発行人 佐藤 保

山梨県北杜市明野町で「雨と風と太陽と」  
「土と人情」に囲まれた。ナナミ  
おばさんの「私、土の子」奮闘記

## 1 小暑・七夕は、豆の種まき時 黒豆、大豆、小豆とパンダ豆??

6月初旬から7月初旬までは、農作業の節目に当たる。明野の農家では、田植えや玉葱とジガイモの取り入れ、豆蒔きに忙しい。

そのような日々も、南アルプスに続く山並みと、薄緑の絵の具を流したような棚田を見ると「日本の原風景」を思わせホッとします。

玉葱の取り入れを済ませ、ダンナに耕運機を入れてもらい、黒豆、大豆、小豆とパンダ豆??を蒔きました。昨年は、日照り続きの空梅雨で豆類は不作でしたが、今年は「元気に芽が出ていて、私たちも元気のお裾分けを買ったよう」

豆類の蒔き時は4月初旬にインゲン、5月初旬に落花生が2種類とササゲ。落花生は味がそれぞれ異なりおいしい、冬の薪ストーブで炎を見ながら煎り。ササゲは赤飯に、豆の匂いや、ふっくらとした噛みごたえがたまりません。畑を始めた動機は「おいしいものを腹イッパイ」でしたから。そうそう、6月は絹さやとグリーンピースの収穫で忙しかったっけ。

右の写真、人参の畝続きにオカヒジキを蒔いて、その左側4畝が落花生。黄色い花が今盛り、花が地中に伸びて豆に変身。



落花生の黄色い花→

### 目次

1 豆の蒔き時	1
2 名前が解らない豆	1
3 好きな野菜!! 食べたい野菜??	2
4 トマトの雨宿り	2
5 人情四方山話 「おじさんで物知り」	2

### ハイライト

・創刊号にて廃刊なんてならないように、土の匂いがお届け出来ればと想っています。

・先日、明野へ夜着いたとき、田んぼの畦を夏毛への衣替えてホコロビだらけのマントをひるがえし、キツネが車のライトの中を走り抜けました。

また、隣家のご主人が「佐藤さん、屋根の棟に猿が2匹座っていたヨ」て。犬が激しくほえるので判ったそうです。

明野付近では、猪や鹿が出て車に当たったとか話を聞きますが。もちろん、蝶も飛んでいます…??。

## 2 名前が解らない豆 パンダ豆、「うまいけれど??な豆」

パンダ豆は、地元の農家からいただいた。農家のおばちゃんが「煮崩れがしないから、作ってみるケエ」。「おばちゃんなんて言うの」「知らんパンダの毛並みに似てるだろ」。ウーン、私は魚のシャチ柄に見えると思った。写真右のパイプフレームにパンダ豆。隣に小豆と人参の種蒔きを終えたところ。

最近もブドウ農家のお手伝いに行って、豆の種を買いました。「おじさん、なんて言う豆」、「知らねエ、でも旨いソ」・・・

実物は、晩秋の収穫時期にご期待を。



### 3 好きな野菜!! 食べたい野菜??

「聞いたことの無い野菜」「食べたことの無い野菜」そんなものを作るのが楽しみ。歯ごたえの良いオカヒジキ、シャキシャキ感の空芯菜(双葉が朝顔に似た、別名 朝顔菜)、梨と蓮の様な味と食感のヤーコン芋、香味がクセになるルッコラ、ジャムに美味しいブラックベリー等いろいろ。

今年のチャレンジは、ジャガイモ8種「メイクインに男爵と省エネジャガイモきたあかり、赤い皮のレッドムーンにアンデスレッド、栗の食感インカのめざめ、紫お肌のジャガキッズ パープル、フランス生まれの色白シンシア」8種混合おならの香り??と「薪ストーブで焼くジャガバタ」をイメージしながら、額に汗して土を友達に奮闘しています。

無農薬のジャガイモ作り。ジャガイモの害虫はてんとう虫、ジャガイモの葉っぱを食べて、葉脈だけの網のようになってしまいます。多い日で860匹も手でつぶし、七星てんとう虫はアブラムシを食べてくれるので益虫、虫の星を数えて疲れます。もちろん遺伝子組み換えには縁も無く、保存用の発芽抑制等も施してはおりません。



↑メイクインとシンシアを収穫中。

きたあかり「おいしいヨ」→



### 4 トマトの雨宿り

今年は「トマト作りに本腰をいれるゾ」と決意も固く取り組み中です。いつものトマト農家は労働のきつさから、ゴーヤ栽培に切り替えてしまい。

今回は色々なミニトマト苗を植え、雨が当たって玉割れしないように、娘たちのビニール傘を数本失敬して覆いにしました。

ミニトマト苗を買ったのに、育てみたら普通のトマトだったり、カラス等の害鳥避けのネット張ったら、自分からまったり。生育良好なミニトマトの脇芽を欠いて、挿し芽で経費節減の苗作りで大忙し。



鈴なりミニトマト熟してヨ→



### 5 人情四方山話「おじさんて物知り」

明野の我が家で工務店がOMソーラーの展示会を催しました。何組もの見学者の中に、息子夫婦と来たおじさんが桃やブドウを栽培しており、出荷できないハネダシがでると聞いたので、「これを逃してなるものか」と連絡先を聞いておき、尋ねてみると去年に奥さんを亡くし、一人で農作業に手が回らないとのこと。

ここで農業お助け隊出動とばかり、おじさんの昼飯も用意して夫婦で朝から出かけました。亡くなった奥さんが眠る菩提寺山門にある畑で初めてのブドウの笠懸け仕事「奥さんの手間代わりだネ」、「ソーヨ、ここから墓が見えるサ」。亡くなって女衆の家事仕事の大変さが解ったそうです。

ブドウが5種、ラフランスより大きな洋ナシや太陽より大粒のスモモなど栽培してありました。お土産に愛娘と言う焼き芋がおいしいサツマイモ苗を買い、植え方の実習を受けて夕方に帰宅しました。「また、お手伝いに行くからネ」



苗は、船底に掘って植えるんだ、肥料はいらネ→フムフム…ナルホド

